

AURAを使用してDNAセンターの可視性を向上

内容

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[背景説明](#)

[AURAがシンプルで使いやすいのはなぜか](#)

[AURA ツールのチェックエリアと機能](#)

[ツールの実行方法 \(簡単な手順\)](#)

[ツールの実行方法 \(詳細な手順\)](#)

[AURA のリモート実行](#)

[インストール手順](#)

[Session Timeout](#)

[スクリプトの使用](#)

[AURAオプションを渡す\(一\)](#)

[AURA出力をローカルに保存](#)

[クラスタでの実行](#)

[その他のオプション](#)

[AURA と CRON](#)

[Cisco DNA Center AURA オプション](#)

[表1: さまざまなAURAオプションのチェック/機能](#)

[AURA オプションのコマンドライン出力](#)

[さまざまなオプションを使用した AURA の実行例](#)

[ツールからの出力](#)

[AURA バージョン - 変更ログ](#)

[AURA で実行されるチェック](#)

[Cisco DNA Centerの健全性と接続性](#)

[アップグレードの準備状況](#)

[Cisco DNA Center Assurance](#)

[SD-Access の正常性](#)

[Cisco DNA Center のスケール](#)

[dnac aura ファイルのハッシュ値](#)

[トラブルシューティング](#)

Cisco DNA Center AURA (Audit & Upgrade Readiness Analyzer)

はじめに

このドキュメントでは、Cisco DNA Center Audit and Upgrade Readiness Analyzer(AURA)コマンドラインツールについて説明します。

前提条件

要件

このドキュメントに関する固有の要件はありません。

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、Cisco DNA Center プラットフォームに基づいています。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな（デフォルト）設定で作業を開始しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

背景説明

AURAは、Cisco DNA Centerおよびファブリックネットワークの残りの部分に対して、健全性、スケール、アップグレードの準備状態をチェックします。このツールは実行が非常に簡単で、Cisco DNA Center で実行されます。このツールは、アプリケーションプログラミングインターフェイス(API)コール、DB読み取り、およびshowコマンド（読み取り専用操作）を使用するため、パフォーマンスに影響を与えたり、Cisco DNA Centerやネットワークデバイスに影響を与えたりすることはありません。

AURAがシンプルで使いやすいのはなぜか

- 現在インストールされているライブラリ/ソフトウェアのみを使用します。
- PDF レポートを自動的に生成します。
- 唯一入力が必要なもの - Cisco DNA Center パスワード（admin と maglev の両方）。
- 圧縮されたログとレポートは、Cisco SR に自動的にアップロードできます（オプション）。

- ファイルを Cisco DNA Center にコピーし、Cisco DNA Center でそれを実行するだけです。
- 非侵入型：データベース(DB)読み取り、showコマンド、およびAPI呼び出しのみ。
- 実行時間 – Cisco DNA Center チェックでは15分未満、ソフトウェア定義アクセス(SDA)チェックではネットワークの規模に基づいて時間が異なります (30デバイスで約30分)。
- 1.2.8、1.2.10.x、1.2.12.x、1.3.x および 2.x リリースで動作します。

AURA ツールのチェックエリアと機能

- Cisco DNA Centerスケールテスト
- Cisco DNA Centerインフラストラクチャヘルス
- Cisco DNA Center Assuranceの健全性
- WLC/eWLC のアシュアランス正常性
- SDA デバイス CLI キャプチャ
- SDA コントロールおよびセキュリティ監査
- アップグレード失敗の原因となるソフトウェアのバグ
- アップグレードの準備状況チェック
- 2.3.3.x用のSDA互換性チェック(スイッチ、ワイヤレスコントローラ、Identity Services Engine(ISE))
- Digital Network Architecture Center(DNAC)-ISE統合チェック
- ファブリックデバイスの設定取得と比較、および組み込みの差分ツールの使用
- AURA のリモート起動 (1.2.0 リリース以降)
- cronを使用してAURAをスケジュールする (1.2.0リリースから)
- Syslog サーバーの統合 (1.2.0 リリース以降)
- クラウドからのテストイメージのダウンロード (1.5.0 リリース以降)

ステップ 1：実行可能ファイルAURAをCisco DNA Centerにコピーします。最新バージョンは次の場所にあります：<https://github.com/CiscoDevNet/DNAC-AURA>

ステップ 2: Cisco DNA Centerからツールを実行します (クラスタがある場合は、「Cisco DNA Center AURAのオプション」の項の例5を参照してください)。

ツールの実行方法（詳細な手順）

Cisco DNA Centerのバージョンが2.3.3.x以降の場合、Cisco DNA Centerではバージョン2.3.3.x以降からセキュリティを強化するために制限付きシェルが有効になっています。デフォルトのシェ

ルはmagshellと呼ばれ、LinuxコマンドやAURAの実行はサポートしていません。次の手順に進む前に、制限付きシェルを無効にし、Bashシェルを有効にします。[2.3.3.xで制限付きシェルを無効にする。](#)バージョン2.3.4.x以降では、制限付きシェルを無効にするために、Cisco Technical Assistance Center(TAC)から同意トークンが必要になる場合があります。

ステップ 1：実行可能ファイルをCisco DNA Centerにコピーします。

dnac_aura

このファイルは <https://github.com/CiscoDevNet/DNAC-AURA> にあり、このファイルを Cisco DNA Center にコピーする方法はいくつかあります。

ファイルコピーオプション1。URLをクリックし、ブラウザを使用してファイルをダウンロードします。

ファイルをCisco DNA Centerにコピーし、ファイル転送ソフトウェアを使用します(ポート2222とユーザ名maglevでSecure File Transfer Protocol(SFTP)を忘れずに使用してください)。

ファイルコピーオプション2。ファイルをCisco DNA Centerに直接コピーし、GITコマンドを使用します。

```
$ git clone https://github.com/CiscoDevNet/DNAC-AURA
```

ファイルコピーオプション3.プロキシサーバが設定されている場合は、ファイルをCisco DNA Centerにコピーし、GITコマンドとプロキシサーバの詳細を使用します。

```
$ https_proxy=https://<server>:<port> git clone https://github.com/CiscoDevNet/DNAC-AURA
```

ステップ 2：ファイルdnac_auraが実行可能であることを確認します。

ファイルdnac_auraをCisco DNA Centerにコピーする場合、通常は実行可能ファイルとしてコピーされません。コマンドを実行して実行可能にします。GIT を使用した場合、この手順は必要ありません。

```
$ chmod 755 dnac_aura
```

ステップ 3 : (オプション) ファイル dnac_aura のハッシュを検証して、適切なファイルがダウンロードされたことを確認します。

適切なファイルがダウンロードされたことを確認するには、[このページの最後](#)にある MD5 ハッシュ値または SHA256 ハッシュ値を比較してください。AURAの各バージョンは、ハッシュ値の固有のセットを持つことができます。

オプション 1MD5ハッシュの検証。

md5sumコマンドを使用します (上記を参照) 。 Cisco DNA Centerまたは他のLinuxシステムでハッシュを生成し、そのハッシュ値を[このページの最後](#)にある値と比較します。

```
$ md5sum dnac_aura
52f429dd275e357fe3282600d38ba133 dnac_aura
```

オプション 2SHA256ハッシュ検証。

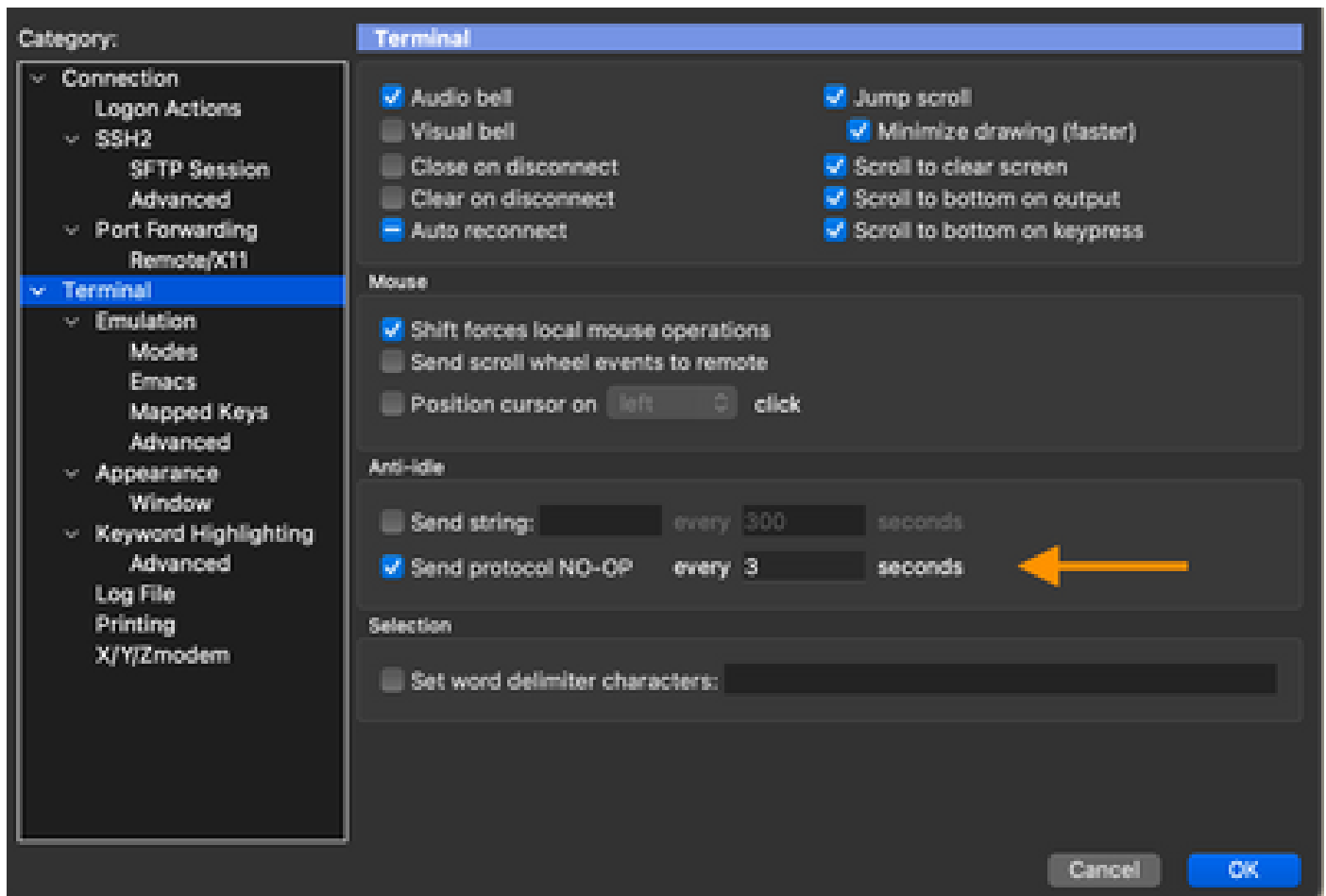
sha256sumコマンドを使用します (上記を参照) 。 Cisco DNA Centerまたは他のLinuxシステムでハッシュを生成し、そのハッシュ値を[このページの最後](#)にある値と比較します。

```
$ sha256sum dnac_aura
c91b6092ab4fa57adbe698a3c17f9146523bba5b0315222475aa4935662a0b6e dnac_aura
```

ステップ 4 : SSHセッションのアイドルタイムアウトを設定します。

Cisco DNA Center の最近のバージョン (2.x+、1.3.3.8+) には、SSH アイドルタイムアウトがあります。これは、SSH セッションから実行されている AURA に影響を与える可能性があります。アイドルタイムアウトが設定されていることを確認します。設定されていない場合は、AURAツールが突然終了する可能性があります。

SecureCRT で 3 秒のアイドルタイムアウトを設定する例を次に示します。



ステップ 5 : コマンドラインからツールを実行します。

Cisco DNA Centerでチェックを実行するファイルの場所に基づいて、関連するオプションを選択します。(オプションを使用する場合は、さまざまなチェックを含めたり除外したりできます)。

```
$ ./dnac_aura
```

または

```
$ ./DNAC-AURA/dnac_aura
```

AURA のリモート実行

このスクリプトを使用すると、リモートのCisco DNA CenterでAURAを起動できます。paramiko と scp ライブラリを使用します。

インストール手順

インストールには、仮想環境を使用することをお勧めします。これらの行は、python3仮想環境を作成し、それをアクティブ化し、pipをアップグレードし、必要なライブラリをインストールできます。

```
python3 -m venv env3
source env3/bin/activate
pip install --upgrade pip
pip install -r requirements.txt
```

Session Timeout

Cisco DNA Center の最近のバージョン (2.1+、1.3.3.8+) には、ssh アイドルタイムアウトがあります。そのため、DNAC で直接的に、または run_remote スクリプトや ansible 経由で間接的に ssh セッションから実行される AURA に影響を与える場合があります。

回避策はシンプルです。ssh接続の場合、-o ServerAliveInterval=3フラグでキープアライブを送信し、セッションを維持できます。これはこのスクリプトで使用されていて、ansible だけでなく ssh 直接接続にも使用できます。

スクリプトの使用

このスクリプトには以下の 3 つの引数が必要です。

- dnac
- admin パスワード (環境変数 DNAC_ADMIN_PASS としても使用可能)
- maglev パスワード (環境変数 DNAC_MAGLEV_PASS としても使用可能)
- admin ユーザー (環境変数 DNAC_ADMIN_USER としても使用可能)。このデフォルトは「admin」です。変更が必要なのは、外部認証と異なるスーパーユーザ名を使用している場合だけです。ほとんどの場合必要ありませんが、--admin-user を指定して使用できます。

引数を指定してスクリプトを実行する最も簡単な方法 (環境変数に関する後のセクションを参照) を次に示します。

```
./run_remote.py --dnac 1.1.1.1 --admin-pass passwd --maglev-pass passwd
```

シェル環境変数に精通している場合は、次のようにさらに簡素化できます。

```
export DNAC_ADMIN_PASS="passwd"
export DNAC_MAGLEV_PASS="passwd"
./run_remote.py --dnac 10.1.1.1
```

AURAオプションを渡す(一)

AURA固有の引数 (たとえばSDAテストを実行する `-s`) を渡すには、以下を行う必要があります：

```
## note the extra --, due to a quirk in the way argparse library works
./run_remote.py --dnac 10.1.1.1 -- -s
```

「`--`」の前に `--local-dir`、`all-cluster`、`--no-pull` などの `run_remote` オプションを必ず含めてください。

`-n`、`--syslog`、`-d`、`-s` などの AURA 固有のオプションは、「`--`」の後に指定する必要があります。

AURA出力をローカルに保存

AURA スクリプトは `--json-summary` オプションをサポートしています。これにより、テスト結果の json サマリーと、DNAC 上のレポートとログファイルの場所が生成されます。`run_remote` に `--local-dir` オプションを指定すると、ログとレポートのファイルを DNAC に戻すことができます。`json-summary` ファイルを作成できます。DNAC のディレクトリが作成されます。

```
/home/aradford/RUN_REMOTE/run_remote.py --dnac 10.1.1.1 --local-dir /home/aradford/RUN_REMOTE/logs
```

これが完了すると、`/home/aradford/RUN_REMOTE/logs` ディレクトリに次を含めることができます。

```
ls RUN_REMOTE/logs/10.1.1.1
DNAC_AURA_Logs_2020-09-08_23_20_11.tar.gz
DNAC_AURA_Report_2020-09-08_23_20_11.json
DNAC_AURA_Report_2020-09-08_23_20_11.pdf
```

Json ファイルの内容は次のようになります。

```
cat RUN_REMOTE/logs/*/DNAC_AURA_Report_2020-09-08_23_20_11.json
{
  "json-summary": {
    "check_count": 64,
    "report-name": "/data/tmp/dnac_aura/reports/DNAC_AURA_Report_2020-09-08_23_20_11.pdf",
    "logfile-name": "/data/tmp/dnac_aura/logs/DNAC_AURA_Logs_2020-09-08_23_20_11.tar.gz",
    "ur_check_count": 19,
    "ur_error_count": 0,
    "warning_count": 5,
    "assur_warning_count": 2,
```

```

    "error_count": 5,
    "ur_warning_count": 3,
    "assur_check_count": 14,
    "assur_error_count": 0
  }
}

```

クラスタでの実行

—all-clusterオプションを使用すると、スクリプトはクラスタのすべてのメンバーを検索し、それぞれに対してAURAを実行できます。

現在、これはシリアル実行です。—local-dirとともに使用して、レポート、ログファイル、およびjson-summaryをDNACからコピーし直すことができます。

VIP または物理アドレスのいずれかを指定できます。スクリプトは接続でき、接続に使用されたIPと同じサブネット内のすべての物理IPを検索できます。

その他のオプション

このスクリプトは、--no-pull オプションを指定して実行することもできます。これにより、AURA の最新バージョンに更新するための git pull が停止しますが、Cisco DNA Center のホームディレクトリに AURA がコピーされていることを前提としています。

～を伴う前兆 クローン

PTY がないため、Cron は AURA にとって難題です。また、DNA Centerのcrontabを編集する必要があります。

run_remote は、PTY の問題を解決し、ローカルの Cisco DNA Center の crontab を編集する必要がなくなるため、より簡単に AURA を実行できます。--local-path と組み合わせてリモートで実行すると、すべての Cisco DNA Center ログが外部サーバー上の同じ場所に保存されます。

DNAC で AURA を 1 時間ごとに実行するための crontab エントリの例を次に示します。
paramikoライブラリとscpライブラリを含む仮想環境を取得するには、Pythonインタプリタを明示的に指定する必要があります。

```
00 * * * * /home/aradford/RUN_REMOTE/env3/bin/python /home/aradford/RUN_REMOTE/run_remote.py --dnac 10.
```

これをシェルスクリプトでさらにラップして、ログイン情報がプレーンテキストで保存されないようにすることができます。

Cisco DNA Center AURA オプション

表1：さまざまなAURAオプションのチェック/機能

	オプションなし (デフォルト)	-s	-d	-o	-c
Cisco DNA Center インフラ正常性チェック	X	X	X		
Cisco DNA Center アシユアランス正常性チェック	X	X			
WLC/eWLC アシユアランス正常性チェック	X	X			
基本的なSDAチェック (インベントリチェック) DNAC-ISE統合 (ISEが統合されている場合のみ)	X	X			
SDA (ファブリックデバイスのCLI収集、コントロールプレーンとセキュリティプレーンの監査および互換性チェック)		X			
アップグレードの準備状況の確認 (バグを含む)	X	X			
Cisco DNA Center スケール (ファブリックおよび非ファブリックのスケールパラメータ)	X	X	X		
ファブリックデバイスからのCLI出力をキャプチャし、DNAセンターにローカルに保存します。ファイル captureFile.yaml2によって提供されるコマンドとデバイスリスト captured.json - Command Runner default output.log – 人間が読める				X	
複数のデバイス間で構成を比較 (キャプチャされた出力に基づき、-oオプションを使用)					X

AURA オプションのコマンドライン出力

```
usage: dnac_aura [-h] [-v] [-V] [--json-summary] [-s] [-u U] [-n N] [--syslog SYSLOG] [--admin-pass ADMIN_PASS]
                [--admin-user ADMIN_USER] [--maglev-pass MAGLEV_PASS] [-d] [--sdadevcheck] [-o] [-c] [--download-test]
```

Select options.

optional arguments:

-h, --help show this help message and exit
-v verbose logging

-V version information
--json-summary print json-summary
-s Run additional SDA checks. To execute these checks, the tool can login to other devices in the fabric and collect show command outputs.
-u U Upload report and logs file to the SR. Please provide SR and password in the format sr_number:sr_password
-n N Add customer name to the PDF report on the first page (the summary page)
--syslog SYSLOG destination syslog server
--admin-pass ADMIN_PASS maglev admin password (this is the UI password for admin user)
--admin-user ADMIN_USER maglev admin user (webUI user, default is admin)
--maglev-pass MAGLEV_PASS maglev password (for sudo)
-d Perform all DNA Center Infrastructure Health checks only
--sdadevcheck to skip the SDA Device limit
-o To collect CLI outputs from the network devices via the Cisco DNA Center.
Ensure you have the captureFile.yaml in the same folder as this tool.
-c Compare configurations across multiple devices.
You can choose 2 timestamps from previous captures taken with the -o option.
PDF Report can be generated with the diffs.
--download-test To perform a download test of 3 test images of different sizes
from the DNAC Cloud Repo in AWS.

さまざまなオプションを使用した AURA の実行例

例1:会社名としてStark Industriesを選択し、デフォルトのAURAチェックを実行し、パスワード123kjaksdhfを使用してファイルをSR 611111111にコピーするには、コマンドは次のとおりです。

```
$ ./dnac_aura -n "Stark Industries" -u 611111111:123kjaksdhf
```

例2:顧客のStark Industriesに対してCisco DNA CenterとSDAの両方のチェックを実行するには、次のコマンドを使用します。

```
$ ./dnac_aura -s -n "Stark Industries"
```

例3:showコマンドの出力を実行してCisco DNA Center上のファイルに保存するには、-oオプションを使用します。このツールでは、Cisco DNA Centerのコマンドランナーを使用して出力を取得できます。コマンドは、次のとおりです。

```
$ ./dnac_aura -o
```

デバイスとコマンドを指定して、これらのデバイスで実行するには、captureFile.yaml が同じディレクトリに必要です。サンプルは GitHub にあります。

例4:CatalystスイッチやeWLCの実行コンフィギュレーションを比較するには、-cオプションを使

用します。デバイスからの出力をキャプチャする -o オプションをすでに使用していることを確認してください。コマンドは、次のとおりです。

```
$ ./dnac_aura -c
```

例5: クラスタでAURAチェックを実行するには、任意の1つのノードについて、テーブルから適切なオプションを選択します。残りの2つのノードについては、オプション -d を選択します。

任意の1つのノード：

```
$ ./dnac_aura
```

残りの2つのノード：

```
$ ./dnac_aura -d
```

例6: AURAをスケジュールするには、cronを使用するか、またはAURAをリモートで実行するには、githubのreadmeファイルを確認してください。

https://github.com/CiscoDevNet/DNAC-AURA/tree/primary/run_remote

例7: DNA Centerイメージが保存されているAWSのクラウドリポジトリへのパスを確認するには、このオプションでAURAを実行できます。このチェックでは3つのイメージ (小 – 50MB、中 – 150MB、大 – 650MB) がダウンロードされ、これら3つのファイルのダウンロード時間を計算できます。このチェックでは、このオプションを選択したときに、テストイメージが削除され、レポートが生成されていないことを確認できます。

任意のノード：

```
$ ./dnac_aura --download-test
```

チェックの例：

```
$ ./dnac_aura --download-test
```

```
#####  
###                                     ###
```

```

### Welcome to the Cisco DNA Center AURA Tool ###
### version:1.5.0 ###
### ###
#####
###
### Please visit us at www.cisco.com - 'Enhanced Visibility into the Cisco DNA Center and use AURA'
###
###
### The image download test can be executed and all other checks can be skipped. ###
###

```

```

#01:Checking:Latest version of AURA
INFO:AURA is up to date
INFO:Performing login... [please provide UI admin level password]
[administration] username for 'https://kong-frontend.maglev-system.svc.cluster.local:443': admin
[administration] password for 'admin':

```

```

#02:Checking:Determine Cisco DNA Center Product Type, Serial number, SW Version & Node IP
[sudo] password for maglev:

```

...

```

#01:Checking:Download test image from the Cisco DNA Center Cloud Image Repository

```

```

INFO:This check can take up to 4 minutes to complete

```

```

INFO:Successfully downloaded a small test image of size 50MB from DNAC cloud repository in 3.4 seconds.

```

```

INFO:Successfully downloaded a medium test image of size 150MB from DNAC cloud repository in 3.2 seconds.

```

```

INFO:Successfully downloaded a large test image of size 650MB from DNAC cloud repository in 16.2 seconds.

```

```

$

```

例7:-sオプションを指定してAURAを実行すると、AURAはファブリックサイトごとに最大50台のファブリックデバイスに対してコントロールプレーンとセキュリティプレーンの監査を実行できます。この制限を排除するには、—sdadevcheckオプションを使用します。



注：デバイスを追加すると、ツールの実行時間が長くなります。

```
$ ./dnac_aura -s --sdadevcheck
```

ツールからの出力

ツールが起動すると、adminユーザ名/パスワードの入力を求められ、続いてmaglevパスワードが入力されます。

```
$ ./dnac_aura.py
```

```
#####  
###                                     ###  
### Welcome to the Cisco DNA Center AURA Tool ###  
###               version:1.4.6                ###
```

```

###                                     ###
#####
###
### Please visit us at www.cisco.com - 'Enhanced Visibility into the Cisco DNA Center and use AURA'
###
###
### All Cisco DNA Center based Health,Scale,Upgrade Readiness,Assurance & SDA checks can be run ###
###
#01:Checking:Latest version of AURA
INFO:AURA is up to date

INFO:Performing maglev login...
[administration] username for 'https://kong-frontend.maglev-system.svc.cluster.local:443': admin
[administration] password for 'admin':
INFO:User 'admin' logged into 'kong-frontend.maglev-system.svc.cluster.local' successfully

#02:Checking:Determine Cisco DNA Center Product Type, Serial number, SW Version & Node IP
[sudo] password for maglev:

...

*****
Cisco DNA Center AURA tool has successfully completed.
Report and Logs can be found at:
-- Cisco DNA Center AURA Report : /data/tmp/dnac_aura/reports/DNAC_AURA_Report_2021-02-25_05_27_45.pdf
-- Cisco DNA Center AURA Logs (tar.gz file) : /data/tmp/dnac_aura/logs/DNAC_AURA_Logs_2021-02-25_05_27_
$

```

このツールは、以下の 2 つのファイルを生成し、/data/tmp/dnac_aura/ に保存します。

- PDF レポート (次の場所に保存)。/data/tmp/dnac_aura/reports。最初のページには、Cisco DNA Center に関するデータ (モデル、シリアル番号、ソフトウェアバージョン、IP アドレス)、ツールの実行時間、実行されたすべてのチェックと結果の概要が表示されます。残りのページでは、コマンド出力と結果のスニペットを使用して、さまざまなチェックの詳細を表示します。エラーと警告は色分けされ、簡単に検索できます。(レポートは -o オプションでは生成されません)。
- Cisco DNA Center からのすべてのログとデバイスからの show コマンドは、tar.gz ファイルに圧縮されます。

Cisco DNA Center AURA Results

Stark Industries

The Cisco DNA Center AURA (Audit & Upgrade Readiness) script performs a variety of health, scale & upgrade readiness checks across the DNA Center and the rest of the Fabric network without affecting any of the devices. This report is auto generated by the script and documents all the checks and logs performed by the script.

Thank you for running it, please reach out to dnae_sda_audit_tool@cisco.com for any feedback.

A total of 80 checks were executed on the setup, found 5 errors and 6 warnings. Please evaluate the Warnings & Errors, ensure the Errors are eliminated prior to proceeding with an upgrade.

Summary of the Results

DNA Center Device Details:

Model	Serial Number	Software Version	Node IP Address
DN2-HW-APL	ABCDE12345	1.3.3.5	10.1.1.1

Script Execution Time:

Start Time	End Time
2020-07-02_12:27:41	2020-07-02_12:33:28

DNA Center Infra Health Results:

Checks Executed	Errors Found	Warnings Found
35	4	2

DNA Center & Device Assurance Results:

Checks Executed	Errors Found	Warnings Found
6	0	1

DNA Center & Device Upgrade Readiness Results:

Checks Executed	Errors Found	Warnings Found
6	1	2

DNA Center SD-Access Health Results:

Checks Executed	Errors Found	Warnings Found
21	0	3

DNA Center Scale Limit Check Results:

Checks Executed	Errors Found	Warnings Found
18	1	0

AURA バージョン - 変更ログ

<https://github.com/CiscoDevNet/DNAC-AURA/blob/primary/ChangeLog.md>

AURA で実行されるチェック

Cisco DNA Centerの健全性と接続性

- #01 : 確認 : AURAの最新バージョン
- #02 : 確認 : Cisco DNA Centerの製品タイプ、シリアル番号、ソフトウェアバージョン、およびノードIPの確認
- #03 : 確認 : Cisco DNA CenterメンバIDの確認
- #04 : チェック : CPU負荷の平均
- #05 : チェック : ディスクレイアウト
- #06 : 確認 : ディスクパーティションのマウント
- #07 : 確認 : ディスク領域とiNode使用率
- #08 : 確認 : Glusterfsがマウントされているかどうか
- #09 : チェック : 応答しないNFSマウントの場合
- #10 : 確認 : 古いNFSファイルハンドルの
- #11 : チェック : ディスクI/Oスループット
- #12 : 確認 : DRAMの総使用可能メモリ
- #13 : 確認 : アプライアンスに取り付けられているDRAM
- #14 : 確認 : プロセッサコアが有効になっているかどうかの確認とステータス
- #15 : 確認 : Dockerステータス
- #16 : 確認 : Dockerプロキシ設定
- #17 : チェック : シェル環境変数
- #18 : 確認 : Kubeletのステータス
- #19 : チェック : SyslogでPLEGエラーを確認
- #20 : チェック : このソリューションの構築元であるCisco DNA Centerのバージョン
- #21 : 確認 : 更新履歴[完全なデータがないため、これはおおよその値です]
- #22 : チェック : 適用されたフック
- #23 : 確認 : クラスタノードの到達可能性 – ノード : [u'91.1.1.13', u'91.1.1.11', u'91.1.1.14']
- #24 : 確認 : インターフェイスの到達可能性 – すべてのノード : [u'99.99.99.13', u'92.1.1.1', u'91.1.1.13', u'99.99.99.1 1', u'92.1.1.2', u'91.1.1.11', u'99.99.99.14', u'92.1.1.3', u'91.1.1.14']
- #25 : チェック : VIP到達可能性 – VIP:[u'92.1.1.2', u'99.99.99.12', u'91.1.1.12']
- #26 : 確認 : ノードのetcdで構成されたDNSサーバーの数(<=3)
- #27 : 確認 : /etc/resolv.confエントリの数(<=4)
- #28 : 確認 : DNS config - /etc/network/interfaces
- #29 : 確認 : DNS到達可能性 – DNS:[u'8.8.8.8']
- #30 : 確認 : DNSサーバは[Cisco Connect DNA](#)を解決できる
- #31 : 確認 : NTPサーバの同期 : ['5.6.7.8', '1.2.3.4']
- #32 : 確認 : クラスタホスト名が定義されています
- #33 : 確認 : DNACのデフォルトのタイムゾーン設定
- #34 : チェック : インターフェイスのエラー
- #35 : 確認 : DCBXアップストリームが原因でtxドロップが発生している
- #36 : 確認 : ノード間のVIP切り替え
- #37 : チェック : カーネルログでエラーをチェックする

#38 : 確認 : 証明書の有効性と有効期限
#39 : 確認 : トラストストア証明書の期限切れ
#40 : 確認 : Cisco DNA CenterのNTPサービスステータス
#41 : 確認 : NTPサーバの時刻同期

#42 : チェック : イントラクラスインターフェイスレベルのルートでキャッシュされたMTUをチェックします。

#43 : 確認 : PMTUディスカバリのステータス
#44 : チェック : ノード表示
#45 : チェック : ノードステータス
#46 : チェック : ノード診断レポート

#47 : 確認 : サービスの配布...
#48 : 確認 : Appstackステータス
#49 : 確認 : エンドポイントのステータス
#50 : 確認 : サービスの再起動カウントが高いことを確認する
#51 : チェック : remedyclが実行されています
#52 : 確認 : DB内のISE状態の状態
#53 : 確認 : DNACユーザ用に設定された外部認証

#54 : 確認 : 外部認証フォールバック設定
#55 : 確認 : DNAC DBのスケラブルグループ、コントラクト、およびアクセスポリシーの数の確認

#56 : 確認 : GBAC移行/同期ステータス

#57 : 確認 : Glusterfsインスタンス
#58 : 確認 : Glusterfs NODE_NAMEの確認
#59 : 確認 : Glusterfsクラスタリング

#60 : チェック : Gluster Volume Heal統計情報
#61 : 確認 : ETCDクラスタの状態
#62 : 確認 : ETCDストレージサイズ
#63 : 確認 : ETCDメモリ使用率
#64 : 確認 : loopback(localhost/127.0.0.1へのETCDバインド
#65 : 確認 : Postgresクラスタステータス
#66 : 確認 : Postgresサイズ
#67 : 確認 : MongoDBクラスタの状態と同期ステータス
#68 : チェック : Docker統計情報のMongoDB CPUをチェックする
#69 : 確認 : MongoDBサイズの確認
#70 : 確認 : Tenantintsegmentのオーバーフロー
#71 : チェック : InfluxDBの状態
#72 : チェック : InfluxDBメモリ使用率
#73 : 確認 : Cassandraの状態
#74 : 確認 : Cassandraステータス
#75 : 確認 : Rabbitmqクラスタの状態
#76 : 確認 : Rabbitmqクラスタステータス

- #77 : 確認 : Rabbitmq キュー ステータス
- #78 : 確認 : 未確認のメッセージを含む Rabbitmq キュー
- #79 : チェック : Zookeeper クラスターの健全性
- #80 : チェック : Zookeeper クラスターのステータス

- #81 : 確認 : Zookeeper Cluster Epoch Validation
- #82 : 確認 : Elasticsearch クラスターのステータス : Maglev-System
- #83 : 確認 : Elasticsearch クラスターのステータス : NDP
- #84 : 確認 : サイドカーリスニング
- #85 : 確認 : REST API(BAPI) 応答
- #86 : 確認 : バックアップ履歴
- #87 : 確認 : LAN Auto を起動できない原因となる既知の問題

- #88 : 確認 : Apache Log4j の重大な脆弱性 – CVE-2021-44228 および CVE-2021-45046

アップグレードの準備状況

- #01 : 確認 : クラスタサブネットが内部アドレスと重複している
- #02 : 確認 : RCA ファイルのディスク使用量
- #03 : 確認 : 終了したコンテナの数
- #04 : チェック : 実行されていないポッドの数
- #05 : チェック : Maglev カタログ設定
- #06 : 確認 : カタログリリースチャネルの詳細 – 検証なし – レビュー用の情報のみ
- #07 : 確認 : カタログシステム更新パッケージ – 検証なし – レビュー用の情報のみ
- #08 : 確認 : カタログパッケージ – 検証なし – 確認する情報のみ
- #09 : チェック : 親リポジトリの設定
- #10 : 確認 : <http://a.b.c.d:80> 経由で ciscoconnectdna にプロキシ接続する
- #11 : 確認 : File-service で FileID マッピングが見つからないかどうかを確認してください
- #12 : チェック : Maglev 証明書の期限切れ
- #13 : 確認 : レジストリ CA 証明書の期限切れ

- #14 : チェック : CA 証明書の期限切れ

- #15 : 確認 : etcd 証明書

- #16 : 確認 : 古いマウントポイントの確認
- #17 : 確認 : Kubernetes の一時的なマウントの確認
- #18 : 確認 : Collector-ISE の設定は以前のアップグレード後にクリーンアップされました
- #19 : 確認 : 保留中のワークフロー
- #20 : チェック : 最後に成功したバックアップを検索するためのバックアップ表示
- #21 : 確認 : 移行ステータスパラメーターが無効なため、プロビジョニングが失敗しました
- #22 : 確認 : Cisco DNA Center での Maglev Hook Installer サービスのステータス

- #23 : 確認 : Cisco DNA Center Cloud Image Repository からテストイメージをダウンロード
- #24 : 確認 : ネットワークで SSL インターセプトが設定されているかどうかを確認してください
- #25 : 確認 : プロキシパスワードエンコーディング
- #26 : 確認 : SDA 導入のマルチサイト数
- #27 : 確認 : DNA Center の最新パッチ 2.3.3.x へのアップグレードパス

#28 : 確認 : バンドルモードのCatalystデバイス

#29 : 確認 : 最近の更新とRCAファイル

#30 : 確認 : セカンダリインターフェイスのステータス (XLのみ)

#31 : 確認 : kubectlの既定の名前空間

#32 : チェック : 証明書の更新によるティラー障害の有無

#33 : 確認 : ディスクパーティション/boot/efiに十分な領域があるかどうか

#34 : 確認 : ファブリックデバイスとDNA Centerバージョン2.3.3.xとの互換性

#35 : 確認 : IPプールの移行

#36 : 確認 : 設定済みAAAサーバとそのステータス

Cisco DNA Center Assurance

#01 : 確認 : Assuranceパーティションのディスク領域の使用状況

#02 : 確認 : 保証サービスのステータス

#03 : 確認 : Check Assuranceバックエンド消去ジョブ

#04 : 確認 : Redis DBをクリーンアップするAssurance NDPパージジョブを確認してください

#05 : 確認 : Redisのメモリ不足

#06 : チェック : Assurance Pipelineステータス

#07 : 確認 : デバイスのヘルススコアの概要

#08 : 確認 : クライアントのヘルススコアの概要

#09 : 確認 : WLCの正しいテレメトリAPIコール

#10 : 確認 : Cisco IOS® XE WLCテレメトリ接続のステータスチェック

#11 : 確認 : Cisco IOS XE WLC Netconf Yangデータストアの確認

#12 : 確認 : Cisco IOS XE WLC sdn-network-infra-iwanトラストポイントと証明書

#13 : 確認 : Cisco IOS XE WLC DNAC-CAトラストポイントと証明書

#14 : 確認 : Cisco IOS XE WLCデバイスネットワーク保証ステータス

#15 : 確認 : AIREOS WLCテレメトリ接続ステータスの確認

#16 : 確認 : AIREOS WLCテレメトリ証明書の確認

SD-Access の正常性

#01 : 確認 : ファブリックデバイスの到達可能性インベントリステータス

#02 : 確認 : ファブリックインベントリの収集

#03 : 確認 : SDA: Cisco DNA CenterとISEの統合ステータス

#04 : 確認 : Cisco DNA CenterとCisco ISE間のSSH接続を確認します。

#05 : 確認 : Cisco ISEノードのメモリ使用量

#06 : 確認 : Cisco ISEノードのディスク使用率

#07 : 確認 : Cisco ISEプロセスのステータス

#08 : 確認 : プライマリISEノード上のAPIを介したSGTおよびSGACLの判別

#09 : 確認 : SDA : 境界/CP/エッジからコマンドをキャプチャ

#10 : 確認 : SDA : ソフトウェアバージョンとプラットフォームタイプの数

#11 : チェック : SDA : ファブリックデバイスのCPU使用率のチェック

- #12：チェック：SDA：ファブリックデバイスのメモリ使用率のチェック
- #13：チェック：SDA：ファブリックデバイス上のLISPセッション数の確認
- #14：チェック：SDA：すべてのファブリックデバイスのLISP IPv4 EIDテーブルサイズをチェックする
- #15：チェック：SDA：境界上のLISP IPv4 MAPキャッシュテーブルサイズをチェック
- #16：確認：SDA：ファブリックデバイスのISISセッション状態を確認します。
- #17：確認：SDA：ファブリックデバイスに複数のISISセッションがあることを確認する：冗長性チェック
- #18：確認：SDA：境界のみ：IPv4 BGPセッション
- #19：確認：SDA：境界のみ：VPNv4 BGPセッション
- #20：確認：SDA：デバイスからのAAAサーバ接続
- #21：確認：デバイスにダウンロードされたSDA:CTS PACS
- #22：確認：SDA:CTS SGTをデバイスにダウンロードしました

- #23：チェック：SDA:eWLCのCPU使用率のチェック
- #24：チェック：SDA:eWLCメモリ使用率のチェック
- #25：確認：eWLCファブリックAPの確認
- #26：確認：eWLCファブリックWLANの確認

Cisco DNA Center のスケール

- #01：確認：尺度：サイトの数
- #02：チェック：スケール：アクセスコントロールポリシーの数
- #03：確認：スケール：アクセスコントラクトの数
- #04：確認：スケール：デバイスの総数（スイッチ、ルータ、ワイヤレスコントローラ）
- #05：チェック：スケール：ファブリックドメインの数
- #06：チェック：スケール：ファブリックサイトの数
- #07：確認：尺度：グループSGTの数
- #08：チェック：スケール：IPスーパープールの数
- #09：確認：スケール：ISE接続の数
- #10：確認：尺度：AAAの最大数（半径）
- #11：チェック：スケール：SSIDの数
- #12：確認：スケール：サイトあたりの仮想ネットワーク数
- #13：チェック：スケール：ワイヤレスアクセスポイントの数
- #14：確認：スケール：ワイヤレスLANコントローラの数
- #15：確認：スケール：ワイヤレスセンサーの数

- #16：確認：スケール：サイトあたりのファブリックデバイス数
- #17：チェック：スケール：サイトごとのファブリックボーダー数
- #18：チェック：スケール：サイトあたりのファブリックコントロールプレーンノード数

dnac_aura ファイルのハッシュ値

AURA バー ジョ ン	MD5 ハッシュ	SHA256ハッシュ
-----------------------	----------	------------

1.5.9	52f429dd275e357fe3282600d38ba133	c91b6092ab4fa57adbe698a3c17f9146523bba5b03152224
1.6.0	e01328f5e0e4e5f5c977c5a14f4a1e14	4f8115d1f2f480efcdb0260cc5a9abb8a067f3cbac2c293a26
1.6.8	f291e3e694fadb2af722726337f31af5	fb7c125910d77c8087add419b937a893174fb30649427ad5

トラブルシュート

問題が発生した場合は、PDFレポートとTARログファイルを使用して、
dnac_sda_audit_tool@cisco.comまでお問い合わせください。

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。